



## モンゴル・ウランバートル市

# 暴動から祝勝会まで 広場は世相を映す「鏡」

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

**WATCH FIRE**

【開発途上国の明日】



これはウランバートル市の中心にあるスフバートル広場である。20世紀初めの独立闘争の軍事功労者の名を冠している。右に見えるのは国会議事堂、左手の緑屋根の建物と黒いビルは市庁舎だ。

今年6月末の総選挙の際、与党勝利の報に反発した2万人がここに集結した。この抗議集会が暴動となり、与党本部や国立美術ギャラリーなどが襲われ、数百名の死傷者が出た。平穏なモンゴルで起きたこの出来事は国内外を驚かせた。

この広場は普段は市民の憩いの場である。お祭りや展示会が催され、若者たちが談笑する。政治集会も開かれるが、これほどの大騒乱となつた例は少ない。1990年の「無血革命」の際には大規模なストライキが行われ、一党独裁を終結させたが、文字どおり死傷者は出なかった。

なぜ今回暴動となつたのか。これには諸説がある。鉱物資源大国の同国は資源価格の高騰により好景気だが、貧富格差が拡大し、不満が鬱積しているとの見方がある。一方、略奪や放火は一部反与党勢力による意図的な扇動の結果と見る向きもある。

今は広場に警察も軍隊も見当たらず、人々がのんびりと行き来している。同国に初めて金メダルをもたらした北京五輪の祝勝会は、多くの市民でにぎわった。この広場には、平和な光景が似合う。(写真も筆者)